

# 病院の実力

新潟編 179

## 病院の実力「骨折治療」

医療機関別2021年治療実績

(読売新聞調べ)

医療機関名	主な骨折手術 合計(件)	重度の骨折 (件)	脆弱性骨折 (件)	骨折	
				二次骨折予防の 薬物治療 (人)	早期手術の割合 (%)
<b>新潟</b>					
立川総合	319	38	281	85	176
長岡中央総合	218	18	200	11	—
魚沼基幹	212	72	140	63	—
新潟市民	192	82	110	75	0
新潟労災	13	6	7	0	0
<b>富山</b>					
市立富山市民	250	24	226	44	141
厚生連高岡	244	69	175	2	8
富山赤十字	235	6	229	86	—
高岡市民	168	14	154	63	66
市立砺波総合	158	29	129	61	32
高岡整志会	139	125	14	25	1
西能	110	19	91	8	5
済生会高岡	71	5	66	27	7

「—」は無回答または不明

今回は骨折治療を取り上げる。手術が必要なケースに絞って調査し、一覧表には、2021年に実施した手術件数などを掲載した。

主な骨折手術は、救命のため緊急手術が求められたり、マヒなど深刻な後遺症が残ったりする「重度の骨折」と、高齢者の「脆弱性骨折」に

## 骨折治療

分けられる。

重度の骨折は、骨盤や脊椎・脊椎のけがで起こるケースと、骨が皮膚を突き破り、むき出しになってしまう開放骨折を対象とした。

脆弱性骨折は、加齢で骨がもろくなる骨粗しょう症が原因だ。尻もちや、床に手をつくなど軽い衝撃でも折れてしまうのが特徴だ。

折れた部位によっては、ギ

# 早期手術で寝たきり防止

プス固定などによる保存療法が中心となるが、「大腿骨近位部骨折」は原則、手術となる。寝たきりを防ぐには、け

とリハビリが望ましい。再度の骨折「二次骨折」の予防も重要だ。

一覧表では、大腿骨近位部骨折の手術に占める早期手術

の割合と、入院中から二次骨折予防の薬物治療を受けた患者数も示した。なお、脆弱性骨折のうち、骨盤と背骨の骨折手術件数は重度の骨折に計上した。

高齢化が進む中、二次骨折予防の重要性は増している。退院後も服薬は続け、転倒を防ぐための運動やバランスのよい食事を心がけたい。

## 閉経後は骨密度計測を

立川総合病院

奥村剛 整形外科医長41



当院では、最も多い大腿骨近位部の骨折で、不安定性の高い骨折に対して、術後すぐ歩行が可能な人工骨頭、人工股関節（人工骨頭、人工股関節）置換手術を積極的にやっている。患部を金属などの器具で固定してつなぎ合わせる骨接合術よりも、早くリハビリを開始できるため、寝たきりになるのを防ぐことができる。ほかに、当院では「脆弱

性骨折」を引き起こす骨粗しょう症対策に力を入れており、私が担当する骨粗しょう症専門外来を設置している。骨粗しょう症治療には、骨密度を大幅に上げることができると、注射よりも安価で通院頻度が比較的低い飲み薬での治療がある。骨折治療中に患者と相談しながら、15年後を見据えて治療方針を決める。

当院で骨粗しょう症治療中

の患者の9割は女性である。50歳以上の女性の2人に1人は生涯骨折を経験する。閉経後に骨密度が低下しやすくなるので、閉経したら、大腿骨の骨密度を測ってほしい。

親が足の付け根を骨折したことがあれば、同じ骨折をしやすい。飲酒や喫煙をする人、慢性腎臓病や糖尿病を患っている人は注意が必要だ。生活習慣病の一部だという意識を持ち、バランスのいい食事と適度な運動を心がけてほしい。

全国の調査結果は19日の「安心的设计面」に掲載しました。